

2024年7月5日

株主様からの Q&A

- ・本 Q&A の開示に付きましては、弊社第 21 回定時株主総会におきまして株主様から事前
にいただきましたご質問並びに当日頂きましたご質問とその回答を、ご質問順に開示す
るものです。
- ・掲載期間後半年程度が過ぎた時点で、弊社ホームページより削除する予定です。

・事前質問

1	質問	今後の売上計上、収益計上の見込みについて教えてほしい。
	回答	当社の業績につきましては、大変ご心配をおかけしておりますが、これまでご説明させていただきました通り、研究開発が先行しており、臨床試験の成否を含め変動が大きいことから、中期事業計画も公表していない状況です。従いまして、売上計上、収益計上の見込みにつきましてはご説明を差し控えさせていただきますが、役職員一丸となり、ライセンスアウトや企業との共同研究契約による売上計上、収益計上をすすめてまいります。
2	質問	株価低迷に対する対策について教えてほしい。
	回答	ご承知の通り、当社の現在の株価水準は、残念なことに、上場以来の最安値水準となっており、株主の皆様方にはご心配をおかけしております。当社といたしましては、株式市場において高い評価を頂くために、事業収入を計上し、企業価値の向上に努めることが最善と考えており、そのためにも現在、当社が進めておりますパイプラインの導出を最優先課題として取り組んで参ります。
3	質問	株価及び業績が低迷している現状において、取締役報酬額を変更することで、これらの改善につながる見通しについて教えてほしい。
	回答	当社といたしましては、現時点において重任となる取締役及び現在の監査役の報酬額を直ちに増額することは予定しておりません。先ほどご説明申し上げました取締役の報酬額の改定については、将来を見据えた優秀な経営人材確保に向けたものであり、報酬を上げることで、業績の改善を図るものではなく、今後、株主の皆様と利害を共有する形で取締役の報酬についても検討を進めて参ります。

4	質問	主要なパイプラインのライセンスアウトの見込みについて教えてほしい。
	回答	現在、当社が取り組んでおります主要なパイプラインのうち、滲出型加齢黄斑変性については、第2相試験が終了し、臨床 POC を獲得、軟骨無形成症については前期第2相試験段階に、また肺動脈性肺高血圧症については非臨床試験が完了した段階にあります。これらのパイプラインについては、現在、事業提携、ライセンスアウトに向け注力しているところであり、当社の役職員が一丸となり取り組んでおります。具体的な提携先との交渉の進捗等については、相手方のある事柄であることから、この場における回答は差し控えさせていただきます。
5	質問	現在の経営陣が高齢化していることについて、後継者計画について教えてほしい。
	回答	当社としてもこの点について、認識しております。とりわけ社長の後継者計画につきましては、経営成績や今後の事業発展に影響を及ぼす可能性が大きく、重要な経営課題と理解しております。 現在、わたくし（中村）は健康面等に懸念はなく、経営執行に問題はないと考えておりますが、後継者計画につきましては、社内での育成、あるいは外部人材の登用も含め真剣に検討を進めております。その一環として、社内での昇進人事や社外からの人材登用を複数実施し、体制の強化を図っているところでございます。

・会場内でのご質問

1	質問	ライセンスアウトについて、契約に結び付いていないのは、どのような課題（費用面なのか、技術面なのか）をかかえているのか教えてほしい。
	回答	現在実際に秘密保持契約を締結してライセンスアウトの交渉しているところは何社かございます。導入するという決断は相手の会社にとって大きな決断になりますが、そのハードルが高い理由の1つは核酸医薬そのものに馴染みがないということかと思えます。その点については、我々が十分にコミットメントすることで出来るだけ垣根を下げるということが可能ですから、積極的に協力していきたいと考えております。 また、核酸医薬のなかでもアプタマーの実績が限られており、ようやく昨年 IZERVAY™ という第2のアプタマー医薬品が承認されましたが、まだ全身投与型での薬が承認に至っていないので、ハードルが高いと感じる企業様が多くございます。そういった意味で我々の RBM-007 が希少疾患（軟骨無形成症）に対する注射剤として承認を得られれば画期的な出来事になると思っております。この点については我々が、先が見えるところまで、なんとか自力で頑張っ乗り越えていかないといけないと認識しております。

2	質問	招集ご通知に課題が記載されているが、取締役の皆さんが認識している課題とそれに対する取組みを聞かせてほしい。
	回答	<p>一番重要な課題は「提携の実現」です。これが実現できれば株価の上昇につながります。ついで「資金の確保」です。3月末の段階で約33億キャッシュを保有していますが、いつまでも続くわけではないですし、資金工面をしなければならなりません。さらに自力でwet AMDの第3相までやろうとすると約50億～100億ぐらいの資金が必要となってまいります。その全額を確保することは非常に困難なので、ある程度の資金が確保できれば、最初に、比較的少人数の未治療のwet AMDを対象にした小さめなパイロットスタディー（第2b相臨床試験）を計画したいと考えています。その結果、ポジティブなデータが得られれば、次の第3相試験への突破口となりうるので、製薬企業との提携や機関投資家からの資金提供を達成するために、積極的に動いていきたいと考えております。これは各取締役共通の認識と考えております。</p>
3	質問	<p>【中村社長に対して】昨年社長の後継者問題について質問させていただいた。今年後継者問題について、検討を進めているとのことであるが、中村社長は相談役になって、社長を他の方にお譲りしたら良いのではないかと。</p>
	回答	<p>昨年、「私が辞めたら会社がつぶれる」と回答した件については、サステナビリティを考慮しない不適切な発言だったため、撤回させていただきます。あらためて、後継者対策の一環として、今回の総会で1名、気鋭の若手を経営陣に加えることを提案させていただいております。私も基本的にはあるところで、若い人たちに経営を譲るということを常々考えており、社内での人材育成や外部からの人材登用等を含めて進めてきているところです。</p> <p>それと並行して、我々の営業成績が上向くような成果をなんとしてもあげていきたいと考えております。</p>
4	質問	<p>【大岩取締役に対して】役員の高齢化・老害が問題になっていると考えますが、対策についてどう考えているのか教えてください。</p>
	回答	<p>役員の高齢化とそれに伴う後継者計画につきましては、先ほど、議長より事前質問の回答をご説明させていただいたとおりですが、社内の人材育成、外部の登用など様々なことを検討しております。</p> <p>かなり慎重に進めなければいけないテーマであるため、具体的な後継者計画の説明は差し控えさせていただきたいのですが、重要なテーマと認識しておりますので、しっかりと今後進めていきたいと考えております。</p>
5	質問	<p>第2号議案、第3号議案の役員報酬の改定について、結果も出ていないのに報酬額をあげることを決定するであれば、「どろぼう」、「盗人に追い銭」と言われませんか。これについてどう考えているか教えてください。</p>
	回答	<p>この点につきましても、事前質問の回答でご説明させていただきましたが、今回重任となる取締役、選任済みの監査役の個別の報酬額を直ちに改定する、</p>

		<p>あるいは増額するというのはないと申し上げます。</p> <p>将来、報酬増額があるとすれば、しっかりと結果をだして、皆様にご納得いただけるような状況で検討すべきであろうと考えております。</p> <p>我々の取締役の個人別報酬の考え方につきましては招集ご通知の中でお示ししている通りでございますが、今後株主の皆様方との利害を共有するよう決定していきたいと考えております。</p>
6	質問	【五十嵐監査役に対して】口座の残高証明の公開はしないのか。
	回答	<p>現預金等の残高につきましては、決算期末毎にきちんと金融機関から残高証明を取り付けて、経営本体、監査役並びに監査法人でも金額を確認し、一致を認めております。経理の方で適切に処理がなされております。従いまして、残高証明の取り付けは会社としては行っておりますが、それを公表するということは特段必要ないのではないかと考えております。</p>
7	質問	<p>(滲出型加齢黄斑変性 wet AMD の臨床試験について) 第2フェーズ完了し、今度のフェーズ3は50億~100億ぐらいかかるということで、合併事業、共同開発というお話をされておりましたが、なかなか機密事項で公表はできないと思っておりますが、今後の目途(いつ頃迄にどのように進めていくのか)を少しご説明していただきたい。</p>
	回答	<p>正攻法で第3相までもっていくのはハードルが高いと考えます。私共が今考えておりますのは、wet AMD に対する未治療の患者様に対して、我々の薬と比較薬(Lucentis®や Eylea®)の効果を1対1で比較できるような形での第2b相臨床試験を実施したいと考えております。</p> <p>そこで瘢痕化抑制を評価項目にいれて、視力も並べて評価するという形にすれば、それほど多くの患者様でなくともデータが取れるだろうと考えております。その試験でだいたい2年ぐらいの期間でデータを取り、それが非常にいい成績であれば、多分間違いなく世界中のメガファーマからオファーがくるだろうと思っておりますし、そういう試験を我々としてはチャレンジしたいと考えております。</p> <p>そのための費用は、事業提携や機関投資家からの投資を仰ぐ形で資金を工面していきたいと考えております。</p> <p>その次の第3相臨床試験というのは患者様の数が非常に多くなりますので、資金的に我々では手に負えないと思っておりますので、大手様と一緒に実施しなければなりません。しかしながら、一番クリティカルなのは第2b相臨床試験であり、第3相に向けた先行試験として未治療の患者様で実施することだと思います。それを資金が担保できれば自社で実施したい。もう一つのやり方は、我々の試みに賛同していただける病院、眼科の臨床医の先生方に医師主導治験をお願いできれば、我々としても積極的に検討していきたいと思っております。いずれにしても我々の RBM-007 が既存薬に比較して「非劣性」で</p>

		<p>あって、既存薬では効果がない癬痕抑制作用に関するエビデンスを取得することが最も大事になるだろうと考えております。まだ、正確に「いつ」というお答えはできかねますが、我々のだいたいの方針・方向性としてはそういうことを考えております。</p>
8	質問	<p>【大岩取締役に対して】役員報酬のアップは何（時期）を基準に決めるのでしょうか？株価でしょうか？業績悪いのに報酬を上がるというのは逆行しているような気がいたします。普通でしたら取締役さんは、責任もって下げるとか何か月貰わないというのが普通かと思うのですが、そこについてのご見解いかがでしょうか。</p>
	回答	<p>【議長より回答】繰り返しになりますが、業績の向上なしに報酬を上げるということは致しません。業績の向上とは、一番わかりやすいのはライセンスアウトによって事業収益が入る、あるいは様々な事業（業務）提携によって業績が向上し、これに伴って株価が上昇することだと考えております。このような明確な達成が無ければ、当然我々は役員報酬の増額は考えておりません。</p>
9	質問	<p>業績の向上について、曖昧なので、具体的につめていただけないでしょうか。（例えば株価が500円になったら等） 業績が上がらないのに役員報酬を上げることも可能になりませんか。</p>
	回答	<p>指名・報酬委員会での議論になりますので、この場で私から株価がいくらになったら役員報酬を上げるという事は申し上げられません。</p>
10	質問	<p>指名・報酬委員会で役員個別報酬の増額についての議論はいつ頃ですか。また、その議論はオープンにやっていただけるのでしょうか。</p>
	回答	<p>現時点においては、そのような状況になっておりませんので、今ここで言及することはできません。 また、報酬委員会の議論はオープンではございません。</p>
11	質問	<p>業績が良くなった、悪くなったという判断は誰がなされるのでしょうか？</p>
	回答	<p>客観的にわかるような、株価に連動するような事業収益の獲得や業績達成です。</p>
12	質問	<p>【五十嵐監査役に対して】銀行の残高証明書のコピーは出せないということでしたが、集合住宅の自治体でも計算書類出してこれでいいですねってことで、証明を出すのですが、そのところはどのようなのでしょうか？</p>
	回答	<p>繰り返しになりますが、預金勘定につきましては、帳簿の金額と残高証明書の金額を金融機関から残高証明書を取り付けて確認しておりますので、その残高証明書を公表する予定はございません。</p>

13	質問	<p>招集ご通知 19 ページで共同研究について触れられているが、ここについても少し具体的にご説明いただきたい。</p> <p>医薬品と違って、もし有効なものが出てくれば収益化が早いかと思えます。</p>
	回答	<p>公表していないものも含めて共同研究につながる試みをいくつも行っております。初期のステージは MTA (Material Transfer Agreement) を締結し、材料を先様に提供して、先様で評価いただくというプロセスがあります。そこで先様でいいデータが確認できれば正式な共同研究に発展するということが行われており、我々の会社としてもこれまで共同研究まで発展して収益化に繋がっているという経験が複数ございますので、これからも鋭意進めてまいります。</p> <p>現在、取締役候補の安達研究開発本部長が先頭に立っていろいろな会社様との共同研究や協議を進めているという状況でありますので、できるだけ早期に収益を伴う共同研究に発展させていきたいと考えております。</p>
14	質問	<p>【大岩取締役に対して】資金繰りについて、前年度は支出が 11 億円ぐらいあったと思いますが、それに対して収入は 0 円となっております。現金と有価証券で約 31 億円位ということだがこのペースでいっても 3 年ほどで資金が枯渇してしまうと思うのですが、これに対してどういう風に対応されるのか。新株予約権が停止されているので、株価的にはずっと下落していたものが一時止まっているが、株主総会が終わった後に、停止の縛りもとけて、株価に対する影響は避けられないと思いますが、資金繰りを具体的にどのようにされるのかを分かる範囲内で教えていただきたい。</p>
	回答	<p>2024 年 3 月末日時点で 34 億弱、現金と比較的短期間に現金化できる有価証券を保有しております。今年度につきましては、軟骨無形成症の臨床試験や、RBM-006 の非臨床試験などで資金が出ていくという計画でございますが、すでに公表させていただいておりますとおり、支出は約 14 億位という予定になっております。従いまして、当面の資金繰りに関しましては、特段問題が無いと判断しております。</p> <p>一方、第 17 回新株予約権は行使が途上にございまして、足元では停止している状況です。</p> <p>すでに 50 百~60 百万円行使が進んでおり、再開する、再開しないは、これからの判断になりますが、再開した場合、今後の株価次第でさらに 800 百万円~900 百万円の資金調達が見込まれる状況でございます。</p> <p>当然ながら、その間にライセンス・アウトや機関投資家からの資金提供が各パイプライン毎に実ってくれば、そこでさらにキャッシュインが期待できます。この部分は安易に見込むということは出来ないとは思っておりますが、今後資金の状況を見ながら事業の計画を検討していきたいと考えております。</p>

15	質問	株主としては前向きの IR が出てくるのを待っており、展望は絵に描いた餅だと仕方がないわけで、確実性が高いもので、来年の株主総会までに、実現可能（コミットメントできる）なものがあれば、中村社長としてこれだけは株主に約束できることがあれば説明いただきたい。
	回答	今進めておりますライセンス活動に注力をして、締結までもっていきたいということがもっとも重要な当社の課題であり、そのために全力を尽くすということをお約束させていただきたいと思います。さらに、眼科疾患に対して我々のパイプラインの検証を進めます。そのために、現在、国内の眼科を専門とする医療機関と様々なご相談をさせていただいております。我々としては、出来るだけ早期に、我々の RBM-007 等を使った臨床試験や医師主導治験が実施できないかどうかを検証しており、ベストを尽くして進めていきたいと考えております。現在の状況を打破するためには、将来に希望を持てるようなプログラムを出来るだけ早くスタートするということが非常に重要であると思いますし、当社保有の有望なパイプラインが十分にあると考えておりますので、そこを活かしながらベストを尽くしていきたいと考えております。